

丸森町大内青葉地域

～後継者育成や移住者を増やすことを目的としたえごまの援農ボランティア～

大内青葉集落協定 代表：菅野 憲一

地域概要

丸森町大内青葉地域は、福島県境に位置し、戊辰戦争の古戦場跡や熊野神社など史跡が多く存在する地域です。高齢化が進んでいることもあって、地域に元気を取り戻したいと考えています。大内青葉集落協定は、えごまを軸に関係人口を増やして地域全体の活性化を目標に取り組みを行っています。



えごまの援農ボランティア集合写真

活動内容

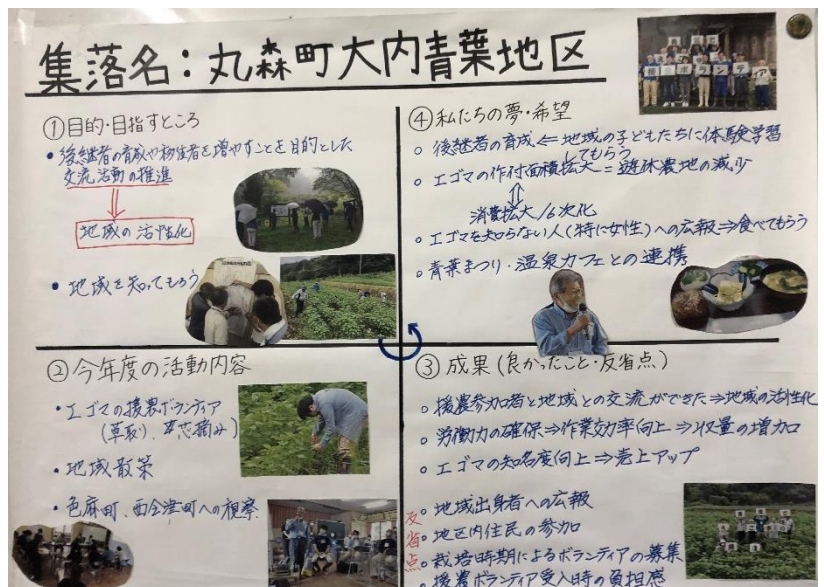
R元年度

地域住民25名が参加して、大内青葉集落における現状について話し合ったところ、地域の活性化に向けた取組が必要だという意見が多く出され、地場産野菜の販売や地元飲食店の出店等のイベントである「青葉温泉カフェ」の拡大や、援農ボランティアを活用したエゴマ栽培への取組など、具体的な活動内容を話し合った。

R2年度

R2年8月にエゴマ栽培作業の援農ボランティアを募集し、町外・県外から8名の参加をもらいました。10月にも援農ボランティアを募集しましたが、当日悪天候であったため中止しました。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大で青葉温泉カフェは中止になっています。



地域住民が思い描く集落像（R2年度）

R3年度

R3年9月に援農ボランティアを募集して、4名の参加者とエゴマ栽培作業を行いました。

また、11月には青葉温泉カフェを開催して、50人の来訪者がありました。

エゴマの援農ボランティア

エゴマの芽かき・草取り作業で援農ボランティアの受入を行い、町外・県外から参加してもらいました。作業はとても捗り、文字通り大助かりでした。また、女性部の協力も得て、手作りのランチや集落見学なども提供しました。次回の参加に前向きな参加者も多く、継続して行うことで関係人口の拡大が期待されます。



青葉温泉カフェ

平成22年から集落内外の人が集まる場所として青葉温泉カフェが開催されてきましたが、東日本大震災で中止され、R元年に再開されましたが、新型コロナウイルス感染防止のためR2年度は中止、そして今年度、再々開することができました。

会場では地場産野菜販売やまゆけばペーパーづくり体験などのイベントを開催しています。

棚田地域振興活動加算

①援農ボランティアと地域の環境美化活動について 【目標：累計40名】

援農ボランティアについては、播種作業、草取り作業、収穫作業の何れかの作業について年1回募集して、関係人口の増加を見込んでいる。また、環境美化活動参加人数については、地元住民の参加を見込んでいる。

援農ボランティア数と環境美化活動参加人数の予測

単位：人

	R4年度	R5年度	R6年度	合計	参考R2年度	参考R3年度
援農ボランティア	10	10	10	30	8	4
環境美化活動参加人数	3	3	4	10		
合計	13	13	14	40		

②エゴマの作付面積について 【目標：3ha】

令和3年度にエゴマ栽培に取り組んでいる農家は4名。集落内でエゴマ栽培に取り組みたい他の農家があり、令和6年度にはエゴマ作付面積を2.5haから3haへ増加させる見込み。

③援農ボランティアの募集について 【目標：3回】

援農ボランティアについては、播種作業、草取り作業、収穫作業の何れかの作業について年1回募集する。

④大内青葉集落への来訪者について 【目標：100名】

大内青葉集落への来訪者は、青葉温泉カフェ（25名）、大内自然薯・エゴマ祭り（50名）、青葉まつり（25名）の計100名／年を見込んでいる。